

ア
ウ
ト
リ
チ

通信



第 21 号

2013 年 3 月 20 日発行
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための
コンサート・シリーズ

クリスマス・コンサート

十二月十五

日(土)、本学
講堂において

「子どものため
のクリスマス・
コンサート」

「いろんな声をかさねてみよう!」

(子どものためのコンサート・シ
リーズ第三十五回)を行いました

(第一部十一時、第二部十五時半
開演、各六十分、来場者計六百八



十八名)。

出演は「音
楽によるアウ
トリーチ」既
習生を含む七
名(ピアノ・
有澤弥生、金
沢彩子、佐々

木葉悠、声楽・南香代子、フルー
ト・中嶋みのり、ヴァイオリン・
賛助出演・東瑛子、チェロ・賛助
出演・藤原克匡)。いろいろな楽
器の「声」とそれらのアンサンブ
ルを聞いて頂くと共に、会場の皆
さんの声と私たちの演奏とを重ね
て一体感を味わってもらうこと
をめざしました。



コンサートが始まりは、柔らか
なトーン・チャイムの響き。音の
重なりが感じられるよう、順に鳴
らした後、和音として響かせまし
た。第一曲はチャイコフスキー作
曲《くるみ割り人形》より《花の
ワルツ》。ヴァイオリン、チェロ、
ピアノという弦をならす楽器のグ
ループとして演奏しました。

続いて、
会場の後方
からフルー
トが登場。
「音の出る
仕組みが全
く違うフル
ートを加え

と一緒に歌うとどうなるでしょう
か？」と会場に問いかけた上で、
J. S. バッハ作曲《管弦楽曲 第
二番》より《バディネリ》をヴァ
イオリン、チェロ、ピアノとフル
ートで演奏しました。

次は、いろいろな楽器が同じメ
ロディーを奏でるトゥッティの例
として、マスカーニのオペラ《カ
ヴァレリア・ルステイカーナ》の
《間奏曲》を、まずはヴァイオリ
ン、チェロ、フルート、オルガン、
ピアノで同じ旋律を一部演奏した
上で、それに歌声をのせた《アヴ
エ・マリア》として出演者全員で
演奏しました。



コンサ
ートも中盤に
入り、ここ
で聴衆参加
のコーナー
です。「声
も楽器、体
も楽器」と

考えて、会場全体でアンサンブルをします。まずは会場を二つに分けて、歌とボディー・パーカッション



ョンを交互に行い、最後は会場全員で同じポーズを取れるようにしました。

ル・ベル」の演奏に合わせて、みんなで歌ってリズムを打って、会場が一つになりました。

次に楽器の王様と呼ばれるピアノのデュオ（二台ピアノ）で、

リスト編曲によるベートーヴェン〈交響曲第九番 第四楽章〉を演奏。

ピアノの誕生と発展をお話した後、チェンバロ演奏によるJ.S. バッハの《平均律クラヴィーア曲集 第一巻》より〈前奏曲 第一番 ハ長調〉に続いて、ピアノ伴奏で

グノー作曲〈アヴェ・マリア〉を歌い上げました。

ここで会場を四つのグループに分けて、〈かえるの歌〉を輪唱しました。一つの旋律を複数の声部が追いかけてっこして歌うのがカンオであるとして説明して、実際に歌うことで体感してもらいました。その上で、パツヘルベル作曲〈三つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンー長調 第一曲〉をヴァイオリン、チェロ、フルート、チェンバロで演奏しました。



コンサート

の最後は、金沢彩子編曲による〈クリスマス・メドレー〉を出演者全員で演奏。〈きよしこの夜〉

うクリスマス〉〈そりすべり〉〈赤鼻のトナカイ〉〈ジングル・ベル〉をメドレーで奏で、その中で演奏を聞いてもらう曲と、会場のお客様が一緒に歌うシーンとを作りしました。最後に出演メンバーを紹介して、客席から温かい拍手を頂きました。

コンサート終了後、お客様からうれしいお声掛けも頂きました。

これも、津上智実先生、澤内崇先生による丁寧なご指導、アウトリーチ・センターのスタッフの皆様や、当日コンサートを一緒に作り上げてくれた学生スタッフの皆様のお力添えのお蔭と、出演者一同、感謝しています。



（補記）コンサート終了後、恒例の楽器体験コーナーを設け、パイプ・オルガン、ピアノ、ヴァイオリン、フルート、パーカッション（トーン・チャイムとウインド・チャイム）の楽器体験を実施しました。



（南香代子・記）

兵庫中央病院

十月三日(水)十四時半から、

国立病院機構兵庫中央病院(三田市大原一三二四)の「オータム・コンサート」(四十五分、三階デイルーム)に出演しました(声楽・初田朋美、松田彩起子、トロンボーン・藤井美波、トロンボーン&ミュージック・クリエーション・吉田梨絵、ピアノ・中島未来)。

病院長

活の中で私たちの演奏が少しでも患者の皆様への心の支えとなるよう、一



一人が心を込めて演奏すること、二重奏やアンサンブルを取り入れて音楽の楽しさや美しさを伝えることで、素敵な時間を過ごして頂けるようにと考えて、プログラムを構成しました。



まず、歌とピアノで山田耕筰(か)らたちの花)、中田喜直(わ)たしと、

ことりと、すずと)と(こだまでしょうか)を独唱。次にトロンボーン二重奏で(ロンドンデリーの歌)、再び独唱でロッシニ(ラ・ダンツァ)、出演者全員で(幸せなら手をたたこう)を演奏しました。(幸せなら手をたたこう)では、患者の皆様にも

一緒に体を動かして頂いたところ、たくさん笑顔を見ることができました。



続いて、ヘンデル(私を泣かせてください)、ビゼーのオペラ《カルメン》より(ハバネラ)を独唱。次に、トロンボーン二重奏で(ジ・エンターテイナー)を演奏すると、ベッドに横になつていた方も、起き上つて足などを動かしながら聴いて下さつたので、その反応に驚きました。

最後に、吉田梨絵編曲による全員アンサンブルで(赤とんぼ)と(故郷)を演奏。(故郷)は会場の皆様にも一緒に歌って頂きました。多くの方が一緒に歌つ

て下さつて、中には涙を流しながら聴いて下さる方もありました。たくさん拍手とアンコールまで頂いて、(故郷)をもう一度演奏しました。



このコンサートは、私たちは、初めて初めのアウトリーチ実習だったので、不

安と緊張もありましたが、気持ちを込めて演奏する大切さと、プログラム構成の組み方など、学ぶことの多い貴重な経験となりました。この経験を今後のアウトリーチに生かしていきたいと思えます。兵庫中央病院のみならず、本当にありがとうございました。

(初田朋美・記)

大阪市立総合医療センター

十月十二日（金）十四時半から大阪市立総合医療センター（大阪市都島区都島本通二・十三・二十二）さくらホールで「オータム・コンサート」（四十分）

に出演しました（声楽・初田朋美、ピアノ・中島未来、フルート・濱悠理子、チェロ・湯浅亜佑美、トロンボーン・藤井美波、トロンボーン&ミュージック・クリエーション・吉田梨絵）。



患者さんの励みになるようなコンサートにしたという思いで企画と練習を進めました。患者さんとの距離を近くするた

め、司会も暗記、演奏も暗譜をしました。選曲については、いろいろな楽器のそれぞれの魅力を感じてもらえるように考えました。



まずは山田耕筰（からたちの花）をメゾソプラノ独唱で演奏しました。曲に関心を持ってもらえるよう、山田耕筰がこの曲に込めた思いもお話しました。続いてバツハ《無伴奏チェロ組曲》より《第一番プレリユード》では、チェロの豊かな響きや多声部の絡みに注目してもらいました。アイルランド民謡（ロンドンデリーの歌）はトロンボーン二重奏の甘いハーモニーを、

ショパン（幻想即興曲）ではグランドピアノでの情熱的な演奏を聴いて頂きました。



アクティビティでは、スペイン民謡（幸せなら手をたたこう）を、手や足を動かしながら一緒に歌ってもらいました。患者さんは予想以上に大きな声を出して下さって、このアクティビティの後、会場の雰囲気がいよ暖かくなったように感じました。

後半の一曲目、安田芙充央（天井のフルート）遠くの空へ）ではフルートの音色をしっかりと聴かせました。続いてロッシーニ（ラ・ダンツァ）をメゾソプ



ラノ独唱で、ジョプリン（エンターティナー）をトロンボーン二重奏で演

奏し、アップテンポで軽快な音楽を楽しんでもらいました。最後の二曲は、出演者の吉田梨絵が編曲した山田耕筰（赤とんぼ）と岡野貞一（ふるさと）をメンバー全員で演奏しました。

涙を流しながら演奏を聴いて下さる方があったり、「生き生きとした姿に夢をもらいました」というお手紙を頂いたりして、私たちは音楽で社会や人に貢献することができのかもしれないと、自信を得ることができました。

（藤井美波・記）

野木病院

十月二十七日(土) 十三時四十五分より、野木病院(兵庫県明石市魚住町長坂寺字ツエ池一〇〇三・一)にて一時間の「オータム・コンサート」を行いました。対象は野木病院のデイケアサービズを利用している六〇〜八〇歳の約二十人と職員約十人の計約三十人。実習は初田朋美(声楽)、米澤典子(声楽)、祐成麻奈未(ピアノ)、大谷梨恵(ピアノ)の四人で行いました。

今回の実習のねらいは、普段聴く機会の少ないクラシック音楽に触れてもらうこと、全員参加型のアクティビ



ティを行うこと、そして秋を感じさせる曲を入れること。視覚的にも楽しんでもらえるよう工夫しました。

最初の印象が大切だと考え、拍手で迎えられた後、挨拶をせずに、モーツァルトのオペラ(『フィガロの結婚』より〈序曲〉)を声楽二重唱とピアノ連弾で演奏しました。その後、〈カーロ・ミオ・ベン〉、〈恋とはどんなものかしら〉、〈ハンガリー舞曲第五番〉(ピアノ連弾)、〈きらきら星変奏曲〉など、短い曲と長い曲を組み合わせて演奏しました。

でした。曲間のお話は自分自身の言葉で話したかったので、練習時からあえて台本は作りませんでした。当日は聴衆の反応を見ながら、曲の解説を詳しくするかしないか、話すスピードをどうするか等、臨機応変に考えながら対応しました。電子ピアノを持参して、譜面台で演奏者の顔が隠れないように向きを水平にし、



一緒に口ずさんでくれたり、ピアノ連弾で「ハイ!」と合いの手を入れたり、聴衆の自然な反応が私たちの緊張を解いてくれました。



全員参加型のアクティビティでは、人数が少なかったので、一人に一つずつ楽器(トライアングル、カスタネット、鳴子、タンバリンや太鼓)を配りました。初めは楽器を持ったことがないからと断る方もいましたが、職員の方々のお手伝いもあり、最終的には皆が楽器を持って演奏して下さいました。曲目は秋を感じさせる〈虫のこえ〉と〈村祭〉。楽器別に四グループを作り、四種の「虫のこえ」を表現した後、〈村祭〉で皆さんと私たちの全員で大合奏しました。

最後にお客様一人一人と握手をして、パワーをもらいました。

(大谷梨恵・記)



春風幼稚園

十一月十三日(火)十時から、西宮市立春風幼稚園(西宮市今津野田町二・六)のホールで、園児を対象とする「春風幼稚園コンサート」(四十分)の実習を行いました(トロンボーン・鶴房采花、ピアノ・大谷梨恵、ピアノ/トランペット・祐成麻奈未、声楽・米澤典子)。

普段聞く機会の少ないクラシ

ック音

楽に楽しみながら触れてもらうこと、金管楽器を知ってもらう

ことを目標にプログラムを組みました。



コンサートの幕開けは、後方から華やかに登場して、出演者

全員による宮川彬良作曲(ゆうがたクインテット)です。続いてドイツ民謡(山の音楽家)では自己紹介を兼ねて各々が楽器を披露。金管楽器の迫力に目を大きく見開く子や、ピアノの演奏と共にリズムを取り出す子ども、演奏者の名札を見てうれしそうに名前を呼ぶ子など、温かな雰囲気ですターしました。

次はヴェルディのオペラ《仮

面舞踏会》からアリア《空の星をご覧なさい》。楽器紹介を兼ねてリチャード・ロジャース(ヘーデル・ワイス)をトランペットで、ガーシュウィン(アイ・ガット・リズム)をトロンボーンで演



奏。トランペットについて

は、管

の長さ(約一五〇センチ)の紐と園児の身長を比較し、



トロンボーンは何の動物に似ているかな、と質問して《ぞうさん》を聞きました。

ピアノ連弾によるブラームス《ハンガリー舞曲第五番》で音の強弱と緩急の変化を感じてもらった後、《おおきなたいこ》を子どもたちと一緒に歌と手拍子で表現。《さんぽ》の合唱ではトロンボーンも加わり、間近で見る楽器に子どもたちも興味を持った様子でした。

《ロンドンデリーの歌》をピアノ伴奏のトロンボーン独奏で

演奏し、最後に吉田梨絵編曲による《春風幼稚園歌》を会場の全員で演奏しました。

アンコールはピアノ連弾によるシュートラウス(ラデツキー行進曲)で出演者がフォルテとピアノを指示し、園児もそれに合わせて手拍子で参加しました。原稿を持たずに話すことで、園児との距離も近づき、自然な進行を運ぶ力もつきました。見学の三年生と四年生が立ち位置の確認や運営を手伝ってくれたのも、よい結果に繋がりました。

(米澤典子・記)



神戸市立医療センター

中央市民病院

十一月十五日（木）十五時から、神戸市立医療センター中央市民病院（神戸市中央区港島南町二の一の一）講堂で「ハートフル・コンサート」を行いました。入院患者に加えて、院内放送を聴いて来場された方も多く、幅広い年齢層のお客様を迎えました。出演は熊谷瑞季（ピアノ）、松田彩起子（声乐）、藤井美波（トロンボーン）、鶴房采花（トロンボーン）、濱悠理子（フルート）の五名です。

このコンサートでは、各曲が「心」というキーワードに触れるように工夫しました。季節感の感じられる中田喜直の〈小さい



秋見つけた〉や渡辺茂の〈たき火〉では、演奏に合わせてメロディーを口ずさむ方も多く、山田耕筰の〈この道〉を演奏した際には、聴いて涙を流す方もありました。ジャズの揺れるリズムが小気味良いガーシュイン作曲〈アイ・ガット・リズム〉をトロンボーン独奏とピアノ伴奏で、プッチーニのオペラ『トゥーランドット』より〈誰も寝てはならぬ〉をトロンボーン二重奏で演奏。フルート・ソロによる安田芙充央の〈天上のフルートく遠くの空へ〉では、ゆったりと音楽に身を預けて心安らぐ空間を演出できたと思います。アンコールも頂き、会場の皆さんで岡



野貞一の〈故郷〉を合唱しました。病院でのアウトリーチは初めてのメンバーが多かったのですが、対象者の大半が大人という環境で、その場にいる方々と一体になって音楽を楽しむことができましたことを何よりうれしく感じました。当病院のコンサートでは、これまで、会場の客席を縦向



きに配置して、いたものを、今回初めて横向きの楕円状にして配置するとい、う試みをしました。演奏者とお客様の距離が近くなって、よい結果を生みましたが、会場リハールで演奏よりも椅子並べに時間を要してしまっただの一つの反省点です。音響や出演者の動線だけでなく、椅子の並び方についても事前に綿密な打ち合わせを行うことを、今後の教訓としたいと思います。

（鶴房采花、熊谷瑞季・記）



雲雀丘学園小学校

十二月十八日（火）、雲雀丘学園小学校（宝塚市雲雀丘四・二）の音楽室において、四年生の四クラスを対象としたアウトリーチ実習（各四十分）を行いました（トロンボーン・藤井美波、鶴房采花、吉田梨絵、ホルン・初田朋美、トランペット・米澤典子、祐成麻奈未、ピアノ・大谷梨恵）。

今回は「金管楽器を知ろう！」というテーマで、普段あまり馴染みのない金管楽器について深く知ってもらうことを目的として行いました。

まずトロンボーン三本と歌とピアノによる宮川彬良



（ゆうがたクインテット）（編曲・吉田梨絵）で幕開け。

続いて、今回のメイン楽器であるトロンボーンのトリオによるデイヴィッド・ウーバー《マンハッタン・ヴィネッツ》。アメリカのニューヨークはマンハッタン島の様々な情景を描いた七曲の組曲の中から、第一曲《イースト・リバーに映る影》、第五曲《ヴィレッジの祝祭》、第七曲《セントラルパークでの戯れ》を演奏しました。模造紙にマンハッタン島の地図を描き、各地区の写真を貼ったものを用意して、視覚的にも分かりやすい説明をめざしました。

次に、トロンボーン・デュオによるプッチーニのオペラ《トゥーランドット》より《誰も寝てはならぬ》（編曲・山口景子）。生徒たちは目の前の二本のトロンボーンが奏でる美しいメロディーに聴き入っていました。

ここで、ホルンとトランペットも登場。これら

金管楽器の特徴や歴史、各楽器の違いなどを説明しました。



マウスピースの大きさの違いを見比べたり、ホースを使って管の長さを比べたり、三種（トロンボーンとホルン、トランペット）の違いを実感してもらえよう工夫しました。

最後は全ての楽器による《クリスマス・メドレー》（編曲・上明子）。《ひいらぎかざろう》（ジングル・ベル）《神の御子は》《サントが町にやってくる》を次々と演奏すると、リズムにのって体を動かしたり、歌を口ずさんだり、生徒たちも楽しんで聴いてくれました。

プラスチック製のトロンボーン「ピーボーン」を紹介して、赤、黄、緑の三色のピーボーン

で《マンハッタン・ヴィネッツ》の第二曲《パーク・アベニューのプードルたち》を演奏した後、楽器体験のコーナー。生徒たちはトランペット、ホルン、トロンボーン（ピーボーン）のいずれかを選んで体験しました。楽器に触れるのはうれしかったようで、笑顔で帰って行く様子が印象的でした。



四クラスそれぞれで反応が違いましたが、音楽の山本雅子先生、岡村圭一郎先生と各組の担任の先生、見学者にもサポートして頂いて、回を重ねる毎に臨機応変な対応ができてよかったですと思います。（祐成麻奈未・記）

子どものための 音楽作りワークショップ

津上智実

(アウトリーチ・センター長)

十月二十日(土) 十時から十

六時まで、第三回「音で遊ぼう! 子どものための音楽作りワークショップ」を音楽館ホールで開催し、音楽学部生二十七名(一年生六名、二年生六名、三年生十一名、四年生四名)と近隣の子どもたち(小学校三年生から六年生まで)三十九名が一緒に音楽作りに取り組みました。この催しは、東京音楽大学、昭和音楽大学との三大学連携の一環として、十月十六日から五日間、本学で「音楽作りワークショップ研修」を実施し、その最終日に学生の学びの仕上げとして組んだものです。指導役には、

英国ギルドホール音楽院リーダーシップ修士の三名(チェロ奏者の英国人タラ・フランクスと打楽器奏者のガーナ人イシユマエル・アフラ・サッキーが来日し、ヴァイオリン奏者でアウトリーチ要員の東瑛子と協力)が当たりました。

当日はアイズブレーキング等の全体ワークの後、打楽器、歌、管楽器、弦楽器を中心とする四グループに分かれて、英語の「風の歌」(No one can guess, nobody knows, where the wind comes from, where the wind goes)を主要素材に、学生と子どもたちがアイデアを出し合っ



し合っ
て音楽作り
をしまし
た。それを
互いに聴



に保護者を客席に迎えて、今日の成果を披露し、アフラの指導でブギ・ダンスを会場一杯に繰り広げると、盛んな拍手が起りました。

ここで、リアル・タイム・ヴイデオによるリフレクションが神戸芸術工科大学の曾和具之准教授によって行なわれました。朝からの活動を撮影して六分ほどのフィルムにまとめたもので、上映後、会場から大きな歓声が上がりました。

その後、グループ・ディスカッションによる学生の振り返りを行ない、子どもの自由な発想

き合った
後、講師の
リードで
様々に組
み合わせ
て展開し
ていきま
した。最後

に対する驚きや、皆で音楽を作り上げる楽しさについての新鮮な印象等が表明されました。参加者全員の意見をバランスよく取り入れるにはどうしたらよいかといった、今後の課題に繋がる質問も多数出て、充実した時間となりました。



履修生紹介

藤井 美波 (トロンボーン)



実習でコンサートを作る時には、お客さんの年齢や好みなどを詳しく知り、こちらが何を伝えたいのか

もはっきりと意志を持って、選曲や演出やアクティビティを考えました。お客さんとの距離を近くするために司会を暗記、楽譜を暗譜して、内向的にならないようにしました。その結果、お客さんの反応を見て感じることで、音楽の力を改めて実感できました。これらの貴重な経験は、社会に出て音楽活動をする上で必ず生かせるものだと思います。

濱 悠理子 (フルート)

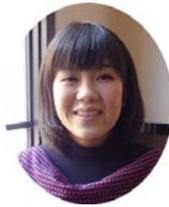


アウトリーチの授業を通して、音楽のすばらしさを改めて実感しました。その空間にい

る全員で音楽を共有する一体感や、その場に流れる優しい空気を感じ、実習が終わるといつも温かい気持ちになりました。実習で出会った皆さんの笑顔、忘れません。

アウトリーチでは、普段の演奏ではあまり意識しなかったことを、たくさん考えました。目線や表情など、授業で色々な意見を聞くことができて、とても勉強になりました。これからアウトリーチで得た経験を生かし、頑張っていきたいです。

初田 朋美 (声楽)



アウトリーチ実習を通して、音楽の力の大きさと、音楽を通して人と心を通じ合うことができることが、できる可能性を学ぶことが

できました。仲間と協力し、意見を言い合い、互いに成長するうれしさも実感しました。毎回のアウトリーチで得るものも多く、将来を考えるきっかけにもなりました。忙しい時期ではありますが、貴重で、とてもいい経験になると思うので、迷っている人はぜひ履修してみてください。

熊谷 瑞季 (ピアノ)



アウトリーチを通して、自分の演奏表現がいつも聴き手に対して開かれた状態であることが大切

だと学びました。コンサートを企画することに履修者同士で議論し合い、時間を作って練習を重ねるのは決して容易ではありませんが、それによって得る達成感には自分にとって必ず価値ある経験になります。アウトリーチには「一歩踏み出し、手を差し伸べる」という意味があります。社会に貢献する音楽のあり方の一つをぜひ学んでみてください。

松田 彩起子 (声楽)



アウトリーチを履修し常に考える続けたことは「今の私たちに出来ることは何か」ということ

です。対象者の需要に合わせて曲目を選ぶだけではなく、出演者で決めたテーマから逸れずに、需要にいか

の発表会です。内容を深め、テーマに沿い、想いを伝えることを考え続けたいとアウトリーチとは言いえないと最後まで感じる授業でした。

大谷 梨恵 (ピアノ)



普段自分が出ているコンサートとは異なる舞台をアウトリーチでは経験しました。聴衆目線に立つ

たプログラム作りから始まり、限られたメンバーと時間でいかに満足していくものにするか。意見をぶつけ合い、何度も何度も考え直し、最後には聴衆から拍手やパワーを頂く。これこそが私のやりたかったことのように感じています。音楽ってこんなにすばらしいということを、これからも伝えていってほしいです。

祐成 麻奈未 (ピアノ)



この一年間で講堂、幼稚園、小学校、病院と様々な場所での実習をさせて頂きましたが、それぞれの場や対象に合わせたプログラムやお話、

接し方などを考えなければならぬことを学びました。紆余曲折がありながらもたくさんの貴重な経験ができたこのすばらしい環境に幸せを感じると共に、一緒に取り組んで来た仲間や支えてくださった方々に感謝の気持ちで一杯です。可能性は無限大。皆さんも様々なことに挑戦してみてください！

鶴房 采花 (トロンボーン)



私は数々の実習を経験すると共に、少しずつ自分の可能性を広げることができたと思います。

います。七夕コンサートから実習を始め、幼稚園や病院、小学校での実習と様々な年齢層を前にして、どのようなお話や演奏をすれば興味深く思ってもらえるのかを考えながら準備を進めました。実際の実習では、予想以上に現場の空気感があり、それを感じながら練習よりも発展させた本番を実現できたのがとてもよい経験となりました。

米澤 典子 (声楽)



アウトリーチに関わりたくて神戸女学院大学に入学した私にとつて、この一年半は充

実した時間になりました。聞いてくれる人がいることのありがたさ、「また来てね」と言ってもらえるうれしさ、大変なこともありましたが、音楽はどの社会にも必要な力の源だと改めて感じる事ができました。関わって下さったすべての方々に感謝しつつ、アウトリーチ一期生であることを誇りに思います。

吉田 梨絵



流していたり、子どもたちが楽しそうに聴いてくれたり、

聴き手の喜びは、私たちの喜びに繋がりました。誰かのために演奏することで、試験とは違ったものを得ることができました。リハー

サルでは仲間同士で意見を出し合い、自分では気付きにくい癖を知ることができたり、皆で演奏会を作り上げる中で一緒に考えたり、助け合ったりして、お互いの仲間も深まったと思います。

湯浅 亜佑美 (チェロ)



「音楽によるアウトリーチ」の実習を履修して、講義から進んで実践することによって、他人を想

う気持ち、ただ弾くだけでなく心を込めた演奏、みんなで助け合うこと、グループの中で話し合っ仲間とプログラムを作る楽しさ、大学生だからこそできる様々な体験や、外に出ること得られる貴重な体験から多くを学ぶことができました。これから履修する後輩たちには、大学生ならではのアイデアを出し合っ、自分たちのコンサートを作り上げてほしいです。がんばって下さい。



「音楽によるアウトリーチ (講義)」

履修生 (十二期生十八名)

ピアノ

古川莉紗、楠原結実、三好千紗都
中田早紀、中川裕美子、山出美緒
山本里紗、吉見友希

フルート

廣瀬紀衣、山川美和

ホルン

増田明日香

ミュージック・クリエイション

松尾璃奈

声楽

奥村真比呂、大槻法子、山田絵梨香

ハーブ

田中茜



♪ 2012 年度 実習履歴 ♪

7月 7日	(土)	子どものための七夕コンサート
10月 3日	(水)	国立病院機構兵庫中央病院アウトリーチ
10月12日	(金)	大阪市立総合医療センターアウトリーチ
10月20日	(土)	音楽で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ
10月27日	(土)	医療法人社団 佳生会 野木病院アウトリーチ
11月13日	(火)	西宮市立春風幼稚園アウトリーチ
11月15日	(木)	神戸市立医療センター中央市民病院アウトリーチ
12月10日	(土)	子どものためのクリスマス・コンサート
12月18日	(火)	雲雀丘学園小学校アウトリーチ
3月 6日	(水)	兵庫県立明石西高等学校アウトリーチ(予定)
3月 7日	(木)	国立病院機構 刀根山病院アウトリーチ(予定)
3月14日	(木)	特定非営利活動法人もみの木アウトリーチ(予定)

子どものためのコンサート・シリーズ

♪子どものためのオルガン・コンサート

日時：11月23日(祝・土) 11:00~12:00

会場：講堂

出演：松居直美(オルガニスト、2013年度より本学音楽学部非常勤講師)
助演)片桐聖子(学院オルガニスト)
西山聡子(学院オルガニスト)

世界的オルガニスト松居直美氏を迎えて
シリーズ4年ぶりのオルガン・コンサート！
グリム童話「ロバの王子」で、楽しいお話と音楽をお届けします！

♪子どものためのクリスマス・コンサート(予定)

日時：12月14日(土) 11:00、15:30(2回公演)

会場：講堂

<企画案公募のお知らせ>

子どものためのクリスマス・コンサートの企画案を公募します！
「音楽によるアウトリーチ」既習生を中心とするグループでの企画を募集します。
応募詳細は、アウトリーチ・センターまでお問い合わせください。

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にすてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月~金 10:00~15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

今年もたくさん感動の場面がありました！来年度も様々な出会いがありますように。(寺澤)

今年度は金管楽器の音色をたくさんお届けすることができました。(三上)

卒業する学生さんたちの益々の活躍を祈っています♪(藤野)

アウトリーチの実習報告ページを倍増しました。学生たちの声をお聞き下さい。(津上)